

配 布 資 料 一 覧

○配布資料

- ・ 議事次第
- ・ 構成員一覧
- ・ 出席者一覧
- ・ 座席表
- ・ 令和５年度農業経営アドバイザー活動推進協議会 総会資料
- ・ 農業経営アドバイザー制度に関するご意見、ご質問に対する回答

参考資料１ 農業経営アドバイザー制度

参考資料２ 農業経営アドバイザー連絡協議会及び活動推進協議会の取組み

参考資料３ 農業経営アドバイザー活動推進協議会規約

○PR 資料

- ・ 第 16 回アグリフード EXP0 東京 案内パンフレット

以上

令和５年度農業経営アドバイザー活動推進協議会総会 議事次第

日時：令和５年７月７日（金）１４時～１５時

場所：日本政策金融公庫本店４階４０１会議室

１ 開会

２ 挨拶

農業経営アドバイザー活動推進協議会 会長 大泉 一貫 様

日本政策金融公庫代表取締役専務取締役 農林水産事業本部長 倉重 泰彦

３ 来賓ご挨拶

農林水産省経営局金融調整課金融調整官 根本 賢治 様

４ 報告事項

- ① 令和４年度 農業経営アドバイザー連絡協議会（都道府県）の活動実績
- ② 令和４年度 農業経営アドバイザー活動推進（全国）の実績
- ③ 令和５年度の農業経営アドバイザー制度に関する取組み

５ 意見交換

６ 閉会

「農業経営アドバイザー活動推進協議会」構成員一覧

(一般社団法人)	全国銀行協会
(一般社団法人)	全国地方銀行協会
(一般社団法人)	第二地方銀行協会
(一般社団法人)	全国信用金庫協会
(一般社団法人)	全国信用組合中央協会
	農林中央金庫
(一般社団法人)	全国農業改良普及支援協会
(一般社団法人)	全国農業経営コンサルタント協会
	全国農業経営支援社会保険労務士ネットワーク
	全国農業経営者協会
(公益社団法人)	中央畜産会
(公益社団法人)	日本農業法人協会
(特定非営利活動法人)	日本プロ農業総合支援機構
(一般社団法人)	農業経営支援センター
	農業経営アドバイザー審査会

計 15 団体



令和5年度 農業経営アドバイザー 活動推進協議会

総会資料

令和5年7月7日(金)

会場：日本政策金融公庫

目次

1. 令和4年度 農業経営アドバイザー連絡協議会(都道府県)の活動実績	
(1)各都道府県連絡協議会の主な活動内容	1
(2)都道府県連絡協議会活動事例	2
2. 令和4年度 農業経営アドバイザー活動推進(全国)の実績	
(1)令和4年度(第34回)農業経営アドバイザー研修・試験の概要	4
(2)全国農業経営アドバイザーミーティング	5
(3)上級農業経営アドバイザーの活動実績レポートの概要及び事例	6
3. 令和5年度の農業経営アドバイザー制度に関する取組み	8

1. 令和4年度 農業経営アドバイザー連絡協議会（都道府県）の活動実績

(1)各都道府県連絡協議会の主な活動内容

- 各都道府県連絡協議会では、①農業経営アドバイザー（以下、アドバイザーという。）の制度周知に向けた活動、②アドバイザーの課題解決のスキルアップ、③公庫とアドバイザー、アドバイザー同士の連携・相互協力関係の強化、④農業政策推進における関与強化の取組みを実施。

○ コロナ禍で一部中止した協議会もあったが、オンライン等工夫して32協議会で総会・勉強会を開催。令和4年度は全国で45回の勉強会が開催され、アドバイザーや農業経営者等約1,000人が参加した。

取組事項		主な内容
①	制度周知	公庫主催の新規就農者に対するセミナーや、お客様交流会の開催時にアドバイザーを招待。公庫から、アドバイザー制度の説明や、各アドバイザーの所属・得意分野等を整理したチラシを参加者に配付して制度を周知
②	アドバイザーの課題解決のスキルアップ	- 畜産生産現場に触れる機会の少ないアドバイザーに、従来の木造牛舎と自動給餌器等による効率性を高めた新牛舎の比較視察を実施 - 社会保険労務士を講師に招き、顧客支援に際しての求人票作成のポイントや就業規則を見る際のポイントについて講演 - スマート農業にかかる取組事例の勉強会を実施
③	連携・相互協力関係の強化	3県合同の協議会を開催し、他県のアドバイザーとの交流を実施 - 民間金融機関のアドバイザーに対して、業種別動向や、公庫の経営支援サービス等について共有、案内
④	農業政策推進における関与強化	- 農水省による「みどりの食料システム戦略」、「農林水産物・食品の輸出」に関連した税制の勉強会を開催 - 世界情勢悪化における原油高と円安による国内農林水産業の影響について地方農政局より説明

1. 令和4年度 農業経営アドバイザー連絡協議会（都道府県）の活動実績

(2) 都道府県連絡協議会活動事例

ア 茨城県連絡協議会

【アドバイス事例を農業経営者等に講演し、アドバイザー制度の周知を図った事例】

- 農業経営アドバイザーと、アドバイスを受けた農業経営者を講師にお招きし、実際にアドバイスを受けた感想等を含め、トークセッション方式で講義。会員や金融機関、農業経営者ら約60人が参加。
- 聴講した農業経営者から、「農業経営者と農業経営アドバイザーのパートナーシップが羨ましい。コンサルや補助金のサポートを受けてみたい、農業経営アドバイザーを紹介してほしい。」「自社の内部体制強化のため社員に農業経営アドバイザーを受けさせたい。」等の感想があり、農業経営アドバイザーの役割を農業経営者に理解してもらうことができた。



「多様な人材がイキイキと活躍できる農場づくり」
・株本山農場 本山代表取締役

多様な人材がイキイキと活躍できる農場づくり

従業員支援！
○青年海外協力隊を目指し、農業普及のスキルを身につけるため入社した職員。
→作物全般の責任ある業務を任せ、今はなくてはならない存在。着々と経験値をUP。

従業員支援！
○技能実習生の安定的な雇用に向けて冬期も仕事を準備。
○休憩時間のコミュニケーションで日本語の理解力を向上させ、帰国後の夢の実現へ。
→3年間で400万円自国に送金した人、日本語検定を取得し、帰国後に進路になった人もいる。



「銀行・税理士事務所それぞれの立場の農業者支援」
・税理士法人 小島会計 佐藤氏

「銀行・税理士事務所それぞれの立場の農業者支援」
税理士法人 小島会計 佐藤 史也
上級農業経営アドバイザー

経理事務が事業規模についていけず

- ・自宅に毎日5～10通書類が届く。農繁期は整理できず
- ・請求書と振込通知書の一部紛失
- ・支払請求書は毎月届くが、冬季の一括振込により、集計しないと経費が最後までわからない。
- ・法人2社・個人2事業者分の通帳20冊近くあり、お金がある通帳から支払う方式をとっていた。
- ・手書きの給与台帳と現金支給により、金額の相違

私のアドバイザーとしての心掛け

- ・新鮮な情報を常に持つ。（農水省HP・経産省HP・自治体経済部を定期的にチェック）
- ・時間をかけて将来像を引き出す
- ・定期的に直接訪問して話をする。（リモートは最小限）

【協議会で年間計画を立て、アドバイザーの課題解決のスキルアップに取り組んだ事例】

- | 令和4年度スケジュール | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|---|---|----|-----------------|---|----|-----------|---|-------|-----------|---|----|-----------|---|----|---|----------------------|-------|---|---|-----|---|---|-----|-----------|---|-------|---|---|----|---|---|----|--|--|
| 第Ⅰ四半期 | | | | | | | | | 第Ⅱ四半期 | | | | | | | | | 第Ⅲ四半期 | | | | | | | | | 第Ⅳ四半期 | | | | | | | | |
| 4月 | | | 5月 | | | 6月 | | | 7月 | | | 8月 | | | 9月 | | | 10月 | | | 11月 | | | 12月 | | | 1月 | | | 2月 | | | 3月 | | |
| 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | | | |
| | | | | キックオフミー
ティング | | | ★勉強会
① | | | ★勉強会
② | | | ★勉強会
③ | | | | (農業者視察)
★勉強会
④ | | | | | | | | ★勉強会
⑤ | | | | | | | | | | |

- ### ウィンウィンの農地利用（農地の集約化）

○農地中間管理事業は、知事が認可した公的機関である農地中間管理機構（農地バンク）が、農地を貸したい農家から農地を借り受け、農地規模拡大を図る農家にまとめて転貸する仕組み

農地の集約化イメージ

○抱いた手（受け手）の懸念

 - ・効率的な経営の確立
 - ・規模拡大
 - ・農地の集約化（分散経営の解消）
 - ・農地、水路、農道などの地域資源の保全管理に対する負担の増加懸念

地域まるっと中間管理方式

まとめ（本日の講演のポイント）

 - ・重要なポイントは？
→リダー、現況把握、危機感の共有、行動
 - ・今やるべきことは？
→リダーの確保状況の把握＆発信
→土地利用現況図の作成
 - ・危機感の共有：自標地図が有効な手立て
 - ・将来の生産力を客観的に予測する
 - ・「農地集積・集約化」の新たな選択肢「地域まるっと中間方式」紹介

2. 令和4年度 農業経営アドバイザー活動推進（全国）の実績

(1) 令和4年度(第34回)農業経営アドバイザー研修・試験の概要

	R4年度	備考
募集期間	R4年7月6日～7月20日	定員800名×年1回実施(受験申込は約760名)
研修期間	R4年9月7日～11月10日 (研修動画のオンライン配信)	9月29,30日に研修講師と受講生の質疑応答セッション(Q&Aサロン)をリアルタイム配信
筆記試験	R4年11月11日～11月13日	3日間で希望する日時・会場を選択
合格者数	217名	第1回から第34回までの累計合格者数は6,011名



1 農業簿記・農業税務



講師

森税務会計事務所
税理士
森 剛一 氏



総視聴時間

4時間03分



2 農業経営診断・改善の進め方



講師

吉川順子税理士事務所
税理士、中小企業診断士
吉川 順子 氏



総視聴時間

4時間07分



3 労務管理



講師

堀内社会保険労務士事務所
所長、特定社会保険労務士
堀内 政徳 氏



総視聴時間

4時間34分



4 農地制度・農地所有適格法人



講師

栃木県農業会議
経営・人材対策部（経営セクション）専門員
高田 武 氏



総視聴時間

1時間27分



5 農業・農村構造と農業政策



講師

宮城大学
名誉教授
大泉 一貫 氏



総視聴時間

1時間38分



6 農業マーケティング



講師

株式会社結アソシエイト
代表取締役
松田 恭子 氏



総視聴時間

2時間7分

2. 令和4年度 農業経営アドバイザー活動推進（全国）の実績

(2) 全国農業経営アドバイザーミーティング

○オンライン配信により、以下のとおり実施。

(1) 配信時期/受講者数：令和5年1月上旬～2月上旬/585名

(2) プログラム

令和4年度は以下の2テーマについて、官公庁や事業者等による講義を配信。

【スマート農業】・・・スマート農林水産業ワーキンググループにおいて、アドバイザーのスマート農業人材育成への参画が示されたことにより設定

【輸出促進】・・・輸出額目標である2030年に5兆円達成に向け、輸出促進施策が推進される中で、食品輸出の現状について情報提供を目的に設定

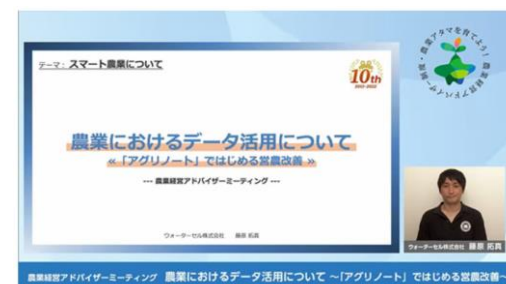
→今年度は、農業経営基盤強化法改正・みどりの食料システム法についての講演や、アドバイザーの活動事例の紹介などを予定。



①現場の課題を技術で解決する「スマート農業」の推進に向けて
・農林水産省大臣官房技術政策室 木村課長補佐



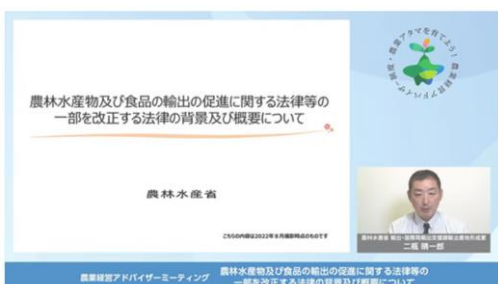
②スマート農業の取り組み
・(有)米八 加藤代表取締役



③農業におけるデータ活用について
「アグリノート」ではじめる営農改善
・ウォーターセル(株) 藤原フィールドマーケティング部長



④クボタのスマート農業と将来展望
・(株)クボタ 飯田特別技術顧問



⑤農林水産物及び食品の輸出の促進に関する法律等の一部を改正する法律の背景及び概要について
・農林水産省輸出・国際局輸出支援課輸出産地形成室 二瓶課長補佐



⑥全農グループの輸出促進に向けた取り組みの概要
・JA全農インターナショナル(株) 川松管理・事業開発部長

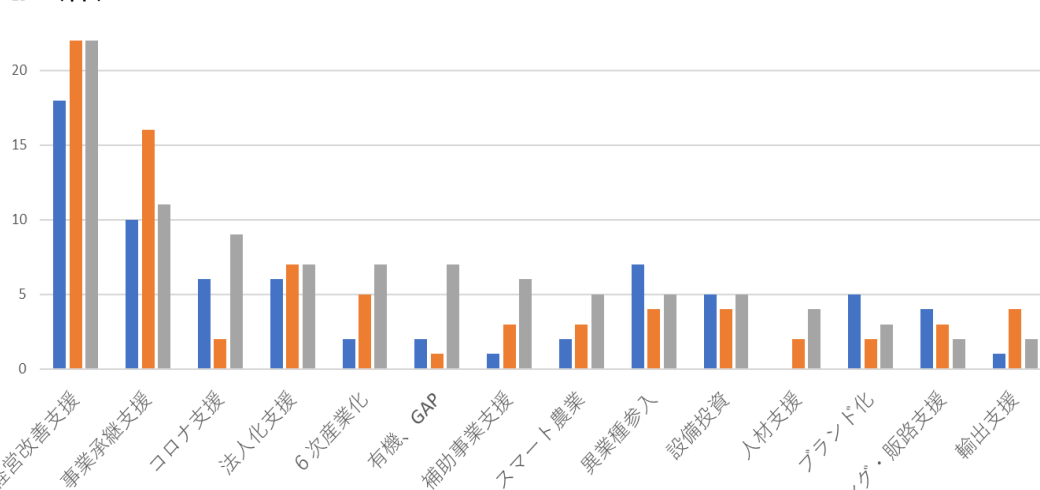
2. 令和4年度 農業経営アドバイザー活動推進（全国）の実績

(3) 上級農業経営アドバイザーの活動実績レポートの概要及び事例

- アドバイスの内容では、経営改善支援が最も多く、次いで事業承継支援、コロナの影響からの経営支援等があった。事業承継支援では、承継に係る課題を洗い出して整理した事例、事業資産のマッチングをした事例等があった。
- コロナの影響からの経営支援事例として、6次化・産地化・生産品目の追加等による事業再構築支援や補助金申請を支援した事例があった。
- 法人化支援では、雇用対策や福利厚生の充実、任意組合の法人化などの課題解決を支援する事例があった。
- 業種別にみると、稲作は米価下落への対応、大規模化へのスマート農業導入、飼料用作物の導入の提案が、また酪農ではコロナ禍の消費低迷、飼料高騰への対応、異業種からの農業参入相談(さつまいも、ワインへの参入等)もあった。

活動実績・アドバイス内容

(件)



※1事例で複数のアドバイス内容が重複する場合あり。

■ R2年度 ■ R3年度 ■ R4年度

業種別提案先数 (件)

	R2年度	R3年度	R4年度	合計
稲作	8	3	14	25
酪農	5	9	7	21
異業種	3	8	5	16
肥育牛	6	3	4	13
農家レストラン・直売・農産加工	5	2	5	12
養豚	5	4	1	10
施設野菜	5	1	2	8
採卵鶏	2	3	1	6
植物工場	2	0	0	2
地域商社	1	1	0	2

活動実績レポートの事例

GAP認証取得支援による販路マッチング・輸出支援(金融機関職員)

- ✓ アドバイザーが若手のメロン生産者グループの事業計画作成を支援し、「SDGsへ繋がるG.GAPに取組み、こだわりの販売を行う」方針を策定。
- ✓ 方針に沿ってGAP指導員による勉強会を複数回実施し1名がG.GAP認証を得た。GAPの取組やメロンの品質を評価され、コストコへの新規販路開拓と香港企業への輸出が実現。

営農型太陽光発電事業者(農業者)と榊卸企業をマッチングし榊の産地化を支援(元金融機関→コンサルタント企業)

- ✓ 営農型太陽光発電は、パネル下で作物を育てるため、高い遮光率でも育つ作物を選ぶことが重要だが、適しているものは少ないため、適切な営農が難しい状況にあった。
- ✓ そこで解決策として、陰性植物であり、パネル下でも発育のよい榊を育てることとし、アドバイザーが営農型太陽光発電事業者(農業者)と榊卸企業をマッチング。
- ✓ 勉強会や意見交換会を重ねることで、太陽光システム関連事業者や榊の流通事業者らが参加する協議会の発足に至り、産地化への活動を拡大。

集落営農法人とTMR新設法人をマッチングし事業承継を支援(税理士)

- ✓ アドバイザー関与先の集落営農法人(稲作150ha)が、適正規模を超えた経営で管理不足のため経営不振に陥っていた。
- ✓ そこで、飼料販売会社と酪農家2件が設立した新設TMR法人へ農地を賃貸することを計画。
- ✓ アドバイザーはTMR法人の事業計画を策定し、地権者と農地中間管理機構へ説明を支援。集落営農法人の経営不振解決と畜産農家の飼料高騰の対策を同時に実現。

食品卸企業の農業新規参入による事業承継を支援(金融機関職員)

- ✓ アドバイザーが、代表者高齢の農業法人と食品卸企業をマッチングし、食品卸企業が農業を承継。
- ✓ 無農薬・有機たい肥のさつまいもを生産し、スイーツ店を展開するとともに、食品卸企業の既存販売網を活かして販売し、地元生産者から集荷も実施する事業計画を策定。
- ✓ 異業種からの農業参入で、地域農業の担い手の確保を実現。今後、地域活性化のけん引役となることが期待されている。

3. 令和5年度の農業経営アドバイザー制度に関する取組み

(1) 令和5年度(第35回)農業経営アドバイザー研修・試験の実施概要

○農業経営アドバイザー研修・試験については、以下のとおり実施予定。

(1) 募集定員: 800名、募集期間: 7月5日(水)～7月19日(水)

(2) 研修: 受講期間内にオンラインにて講義視聴

〔受講期間: 9月上旬～筆記試験前日まで〕

(3) 筆記試験: 受験者最寄りの会場にてオンライン受験

〔試験日程(予定): 11月10日(金)～11月12日(日)(※受験者が希望日時を選択)〕

○上級農業経営アドバイザー試験については、以下のとおり実施予定

(1) 1次選考 書類提出期限 6月7日(水)～6月30日(金) (結果発表日 8月31日(木))

(2) 2次選考 論述試験: 10月18日(水)、面接試験及び審査会: 10月19日(木)、公庫本店にて実施

(2) 令和5年度農業経営アドバイザーミーティングの実施概要

○農業経営アドバイザー資格保有者に対する研修・スキルアップの機会として以下のとおり実施予定。

(1) 受講定員: 500名

(2) 開催方法: オンライン開催とし、令和6年1月から2月にかけて動画配信。

(3) プログラム

農業経営基盤強化法改正・みどりの食料システム法についての講演や、アドバイザーの活動事例の紹介など。

(3) 農業経営アドバイザー制度ロゴマークの商標登録について

農業経営アドバイザー制度の認知度向上のため、ロゴマークを制作し、商標登録が完了。
全国のアドバイザーに活用していただくよう周知し、アドバイザー制度の認知度向上に生かす。

